

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会
平成 13(2001)年度第 4 回相互協力委員会議事録

日時：2001 年 11 月 8 日（木）午前 10 時～午後 5 時

場所：愛知大学名古屋図書館 3F 会議室

出席者：長坂功(愛知大学)、足立祐輔(愛知学院大学)、加藤直美(愛知工業大学)、中上恵子(愛知みずほ大学)、浜野五鈴(鈴鹿医療科学大学)、小川光男(中京大学)、疋田幸世(中部学院大学)、
蓑島智子(中部大学)、加藤富美(南山大学)、石川宗臣(日本福祉大学)、酒井麻里(金城学院大学)

記録：酒井麻里(金城学院大学)

計 11 名

【協議事項】

1. 2001 年度相互協力情報交換会の運営について

- ・情報交換会の名簿と人数の確認を行った。参加予定 27 大学 46 名。
- ・前回の委員会に欠席だった、ナウカのプレゼンテーション内容の説明が委員長よりあった。ナウカが提案する価格や、コンソーシアムの参加図書館数に若干現実味が乏しいとの指摘があったが、プレゼンテーションとしてはそのまま行っていただく事となった。これにより、情報交換会の業者プレゼンテーションが、丸善・紀伊国屋書店・ナウカの三社に確定した。
- ・事前に作成しておいた、相互協力委員会に対するアンケートに対する回答集について協議した。質問事項とそれに対する回答について、一部加筆・修正をしたものを情報交換会当日、参加者に配布することとなった（修正箇所は質問をした大学名を削除するなど）。また、今回からは不参加の加盟図書館にも当日配布した資料を送付することとなった。
- ・各分科会に分かれて、最終の打ちあわせをした。その後、分科会の進行を担当する委員から役割分担、おおよその進行方法、使用する資料などについての説明を行った。

A 分科会 進行：中上 記録：酒井 報告：加藤富

研修関係の文献紹介・事例報告 自己紹介 委員校大学の事例報告
意見・情報交換

配布資料：文献リスト一覧資料、事例報告

B 分科会 進行：蓑島 記録：足立、長坂 報告：加藤直

事例発表 自己紹介 アンケートに基づき意見・情報交換

配布資料：事例発表シラバス、事例報告、文献リスト、

C 分科会 進行：小川 記録：疋田、浜野 報告：小川

自己紹介 コンソーシアムについての意見交換 事前アンケートについて意見交換
意見・情報交換

配布資料：事前アンケート資料を使用

- ・当日のスケジュールと準備の詳細の確認を行った。

若干の時間延長を参加者にご了承頂けるよう、開式時に案内する。

準備のため、委員は午前 10 時に集合する。委員長校より通知文書を出す。

受付から交流会までのタイムスケジュールの詳細を確認した。

参加者用の名札を用意することとなった。名札の作成は会場校に依頼した。

分科会用大学名ネームプレートにつき準備することとなった。

案内の掲示、お茶の用意、当日の会場説明は会場校に一任する。

録音するかどうかは記録係の判断によるが、録音機器と記録テープは準備する。

・委員の役割分担を最終確認した。下記のとおり。

☆司会、進行、運営（長坂）

☆会計（加藤富）

☆受付（中上、加藤直、加藤富）

☆記録（蓑島、酒井）

☆お茶（加藤富）

☆録音（足立、石川）

☆写真（疋田）

☆交流会（加藤富）

☆設営、書類作成（全員）

・当日配布する資料の確認を行った。各分科会資料は参加者へ一括配布する。基本的には委員長校で印刷を行い、当日委員で配布一覧にもとづき配布用資料を整理する。なお、原稿が間に合わない場合は当日参加者分を各自印刷して持ち寄ることとした。

配布資料は下記のとおり

- 1.相互協力情報交換会プログラム
- 2.当日アンケート
- 3.参加者名簿
- 4.事前調査アンケートおよび回答
- 5.業者プレゼンテーション資料
- 6.各分科会資料
- 7.Nacsis-ILL 参加・利用状況
- 8.交流会案内

2. 「一般開放アンケート」について

研究会で行った「一般開放アンケート」を相互協力委員会で委員会事業として引き継いで欲しい旨、研究会幹事校より依頼があったことが、委員長より報告された。その資料の説明およびアンケート結果について確認を行った。ただ、依頼内容があいまいという指摘があり、具体的に一般開放についての何を引き継ぐのか、各図書館の事情によることを委員会で受ける必然性があるのか、単にアンケートの数字を更新するだけでよいのか、などの意見が出された。よって、12月に開催予定の常任幹事会の場で、研究会から具体的な引継事項の方向性などを明確にして欲しい旨、委員長より伝えることで了解した。

3. 東海地区協議会ホームページについて

・現状では情報化委員会委員のホームページ担当が行っているが、情報化委員会の一人の委員に負担がかかりすぎており、結果、更新されるのが遅くなってしまっている。また、議事録はPDFのものしか見られない為、言語による検索ができない、アクロバットリーダーが無いと読めない

状態である。また更新のレスポンスがわからないなど不都合が多い。以上の点をふまえて、

- 1) 更新ユーザーの委譲
- 2) 送付文書の HTML 化

の 2 点が情報化委員会より相互協力委員長に提案されていることが伝えられた。委員長よりこの提案の主旨を簡潔に説明した後、委員間で意見交換を行った。

- a) 長期的に考えると委員会レベルではなくて、協議会レベルで考えるべきではないか。
- b) 情報化委員を選ぶ時点で HTML が書ける人を選ぶべきではないか。
- c) 今の組織で対応しきれないなら、情報化委員会を拡大するなり、何か対応を考えるべきではないか。
- d) 協議会が資金をだして、外注に出したらどうか。
- e) 学生アルバイトに頼んでも充分できるのではないか。

などの意見がだされ、相互協力委員長から情報化委員長に、相互協力委員会としては上記のような考えであることを伝え、情報化委員会の中で現状を熟考してもらった上で、委員会レベルで問題を投げかけてもらうべきである、との認識で一致した。

また、今後の長期的なメンテナンス・更新体制については協議会で再考してもらいたい旨、委員長より 12 月に開催予定の常任幹事会に諮ることとなった。

- ・相互協力委員会のホームページの項目について協議した。
各委員は相互協力部分のホームページを確認していることを前提に協議を行った。先ずレンタルサーバーに移行した事で一歩前進したのだから、次は体制作りが大切なのではないか。あまり欲張りすぎず、項目など内容については順次充実させていけばよいのではないか、との認識で一致した。
- ・Yahoo! で協議会のホームページを検索すると、金城学院大学図書館のホームページにつながってしまうので、URL を変更したことを表示させるか、新しい URL にジャンプするような仕掛けをつくるなり、更新を依頼するなりしなければならない。これについては委員長より情報化委員会に進言することとなった。
- ・自館のホームページと協議会のホームページをリンクするよう、呼びかけをすることとなった。

4. OPAC 横断検索について

- ・愛知工業大学の加藤直美さんより、既に実施されている横断検索の事例をまとめた資料が配布された。また、図書館間の物流について、諸費用の見積もりの紹介があったが、物流に関しては具体的な協議などは時期尚早だとして、あくまで横断検索について重きをおくことで了承した。
- ・委員長からは J-cross を使ったカスタム横断検索の紹介があった。これについても見積金額が提示されている。5 大学で初年度約 200 万円程度の金額で実現できる見込み。
- ・委員会としてはなるべく機会をとらえては、OPAC 横断検索についての情報を出していくこととなった。また CALIS の横断検索の取組み等に関しても情報を集めていくこととなった。
- ・これまで調査して収集した情報や問題点をレポートにまとめて、継続的にこの件に関して扱っていくように、委員長より理事校を通じて常任幹事会に提出することとなった。また、今後も相互協力委員会で調査研究していくためのワーキンググループを立ち上げることとなった。メンバーは次の通り。愛知工業大学 加藤直、中部学院大学 疋田、南山大学 加藤富、愛知大学 長坂。

5. その他

- ・ 次回委員会の協議事項については下記の通り

2002 年度実務担当者研修会の準備のためのワーキンググループの立ち上げ。

新規事業について。

- ・ NACSIS-ILL の参加・利用状況をまとめた資料が愛知工業大学の加藤直美さんより配布された。前回の委員会です承されたとおり、相互協力情報交換会での参加呼びかけのために、当日の配布資料とすることになった。
- ・ 委員長より、情報交換会や研修会などに参加できない加盟館員のために、現在のやり方とは別の方法で場を設けられないか、という提案があった。例えば土日開催の公開講演会形式のものを想定している。これは、今回の情報交換会の参加を呼びかけたときに、参加したいけれども館の事情でそれができない、もしくは大学の都合で事務出張自体が難しい、という人が多かった為であるが、すぐに答えを出せる事項ではない為、各委員に提案を投げかけるのみに留めた。

以上